

に一杯の茶碗酒に一日の勞を慰し、明日への精力を養ふ労働者や農民にとつては米以上の必需品であり、戦地の兵士にとつてもなくてはならぬ品である。もし傳へられるが如く制限が二分の一乃至四分の三にも及ぶとすれば、上等酒を常用し得る上流階級はさまで不便を感じらんも、下層階級にとつては非常な脅威である。

△其他、「和平の提唱、獨逸の眞意、英佛の態度、白米の禁止」(八日付都) 「體力優生の兩制度」(八日付日々)

内閣情報部一〇・一〇 情報第一號

雲南日本語放送(九日)

(東京都市通信局聴取)

(この講演は朝鮮人らしく發音正鵠を缺き不明の點多し)

一、日本は歐洲動亂の勃發と獨ソ不可侵條約に依つて獨伊樞軸の防共協定加盟を臺無しにして終つたが國內的には軍部ファシオ官僚の陰謀政治のみが行はれ軍部は對支戰の失敗を陰蔽せんがために政治的陰謀によつて國民を煽着してゐるのであるが現實は却つて彼等の陰謀を否定し國際的に日本の外交は益々困難となり日本孤立の状態に陥つて終ひ英佛は一時東洋より引退したがアメリカは強硬な態度を示して日本の火事泥的な中國侵略は容易にその機會を與へないのである。

中國派遣軍總司令部を新たに設けて西尾敏稔を任命し事變處理に禪を締めてかゝらねばならぬと云つてゐるが十四萬の大軍を長沙攻撃に遭遇し甘糟師團の如きは支那軍に包圍されて全滅して終つた、軍首腦部は長沙戰に關する外人記者の質問に對してゴマカシを云ふのに苦心したこの事である。全體長沙の如き軍事約價値のない地域の攻略に何故かゝる大軍を要するのであるか、之皆日本軍閥の對支認識不足に基因してゐるのであつて彼等は二百

萬の將兵中既に三十萬を失つてゐながら尙且つ支那征服を夢見てゐるのである。従つて日本軍閥は國民の生活苦には何等の考慮も拂はないでこれから先も無理算だんによつて甚大な軍事費の豫算をこるものと思はれるが日本國民こそは憐愍に値するものである。日本軍部フアシオと官僚の現在行つてゐる陰謀政治は國家の大權を脅やかすものであり阿部内閣は軍閥の傀儡として出現したのであるが既に百八十億の戦費と二百萬の將兵を消耗し盡した日本が軍部フアシオの考へてゐる如く支那に於いて英米佛と果して事を構へる能力があるであらうか。米國は大西洋艦隊を續々と太平洋に回航した許りでなく日米通商條約の廢棄を通告してゐるのである。ワシントンよりの情報によればハル國務長官は堀内大使との會見に於て「アメリカは日本の支那に對する最近の態度に多大の疑問と關心を有せざるを得ない」と語つたといふ事である。

日本國民は軍閥フアシオと無理心中をする積りでゐるのであるか日本國民は大に考へなければならぬ時であると思ふ。

約閣情報部一〇一〇 情報第二號

重慶ロイテル新聞電報放送 (五日)

(朝鮮總督府遞信局聴取)

一、最近當地に達した前線よりの支那側電報は「湖南省の首府長沙北方及び東北方の日本側全線の撤退」を傳へてゐる。四日前日本側の占領した長沙東北方公路上の重要村落福臨鋪よりの支那側通信員の電報は支那側の反撃は猛烈に行はれ、福臨鋪、橋頭驛、金井、SHAN SHAN、水南岸の孤立村落を依然保持してゐる日本軍敗殘兵を掃蕩中であると言傳へ、支那軍は「長沙東北方の戦場で最も甚大なる死傷者を出したのは日本軍第三十三師團で、同師團は「長沙東北方の戦場で屍體三千を後方に残したまゝ、撃退せられた」と述べてゐる。

二、日本爆撃機八十機は五隊に分れ再び深更から未明にかけて重慶郊外をリレー式に襲撃し、重慶市民を終夜防空壕内に閉込めた。これは連續第七回目の夜襲であるが、満月の夜も過ぎ、又今朝からはしとしと、驟雨が降り始めたので、重慶は次の満月迄暫時平和を享受し得るだらうと一般に信じられた。ところが今朝十時當地に空襲警報が鳴響き、日本機が揚子江沿岸を上流へ向つて飛行するのが見受けられたが、午前十一時三十分警報は解除され襲撃機は南方に轉じて湖南省西部の芷江を爆撃した。昨夜日本機は非常な高度をこつて